

2005年3月期 連結決算説明会資料

2005年4月25日

**3年連続の増収増益により史上最高値を達成**  
**- 電子デバイスシステムの業績拡大が貢献 -**

 株式会社日立ハイテクノロジーズ

【お問合せ先】

社長室 広報・IRグループ 専門部長 芥川 達哉

TEL : 03-3504-5138 FAX : 03-3504-7123

E-mail : [akutagawa-tatsuya@nst.hitachi-hitec.com](mailto:akutagawa-tatsuya@nst.hitachi-hitec.com)

# < 発表目次 >

## . 2005年3月期 決算概要

2005年3月期決算ハイライト	4
2005年3月期経営成績	5
セグメント別営業概況	6
セグメント別主要製品群の動向	7
仕向地別売上高	11
損益計算書	12
貸借対照表	13
キャッシュ・フロー計算書	14

## . 2006年3月期 業績予想

2006年3月期業績予想	16
セグメント別業績予想	17
経営環境の見方	18
事業戦略	19
経営改革	34

# . 2005年3月期 決算概要

---

執行役常務(経理本部長) 三澤 寛

## 2005年3月期決算ハイライト

- 営業利益は300億円(前年比2.2倍)、当期利益は150億円(同2.1倍) -

### 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益

- ・ 全項目において、過去最高値を更新
- ・ 配当金を15円から20円に増配

### 日立電子エンジニアリングのグループ会社化

- ・ 2004年4月からの連結子会社化により、当社業績に大きく貢献  
(統合効果 : 売上高 730億円/年、営業利益 63億円/年)

### 半導体・液晶市況の改善で、電子デバイスシステムが増収増益

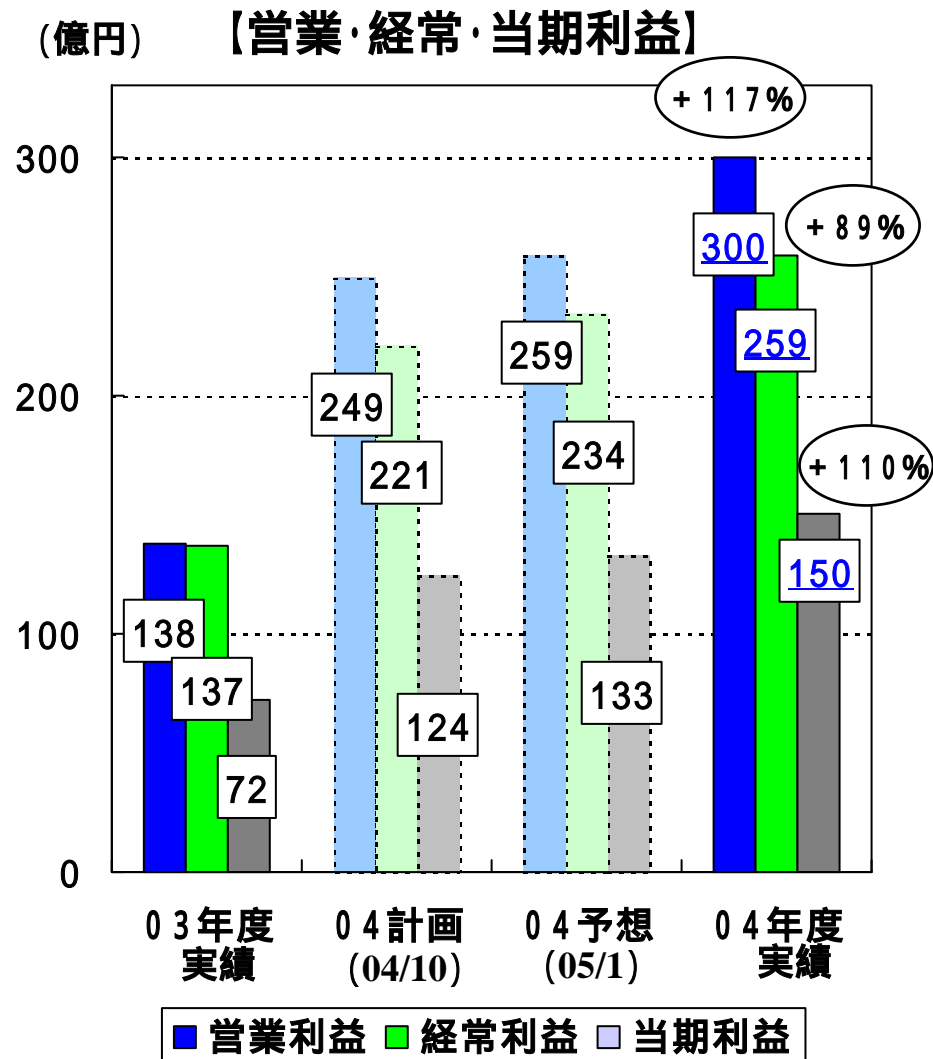
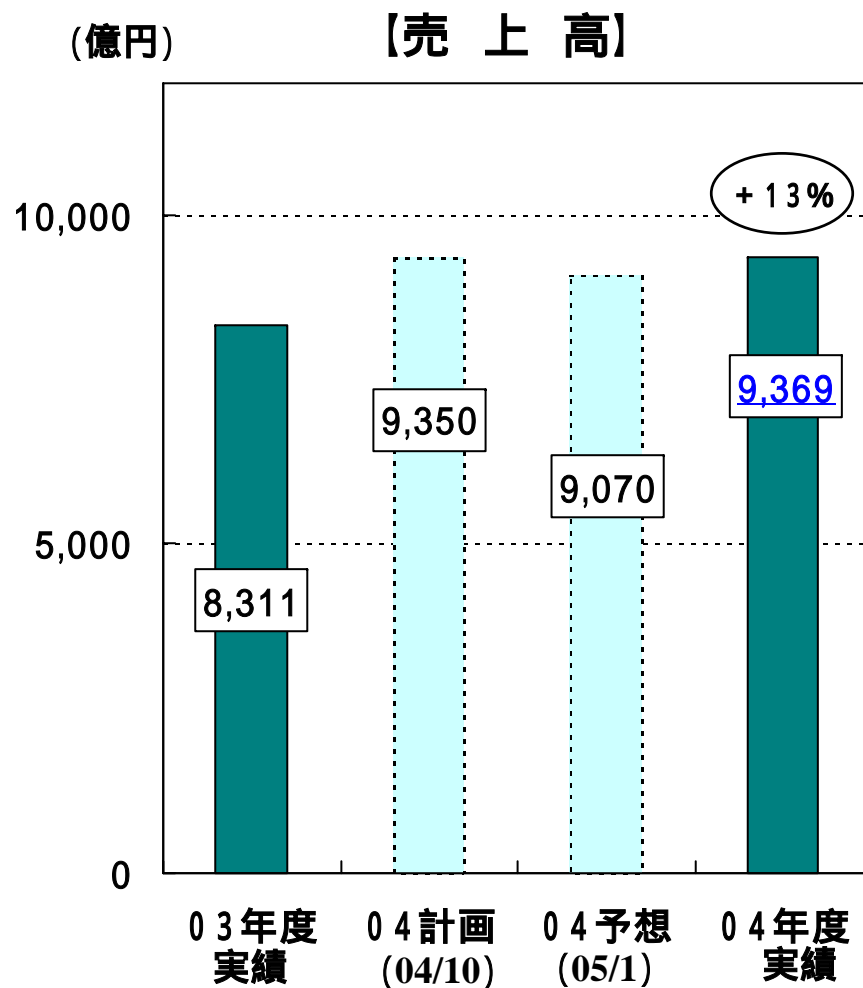
- ・ 測長SEM、プロセス製造装置、液晶関連装置等を中心に業績が拡大

### 財務体質の改善

- ・ 減損会計の前倒し適用
- ・ 借入金の圧縮

# 2005年3月期経営成績

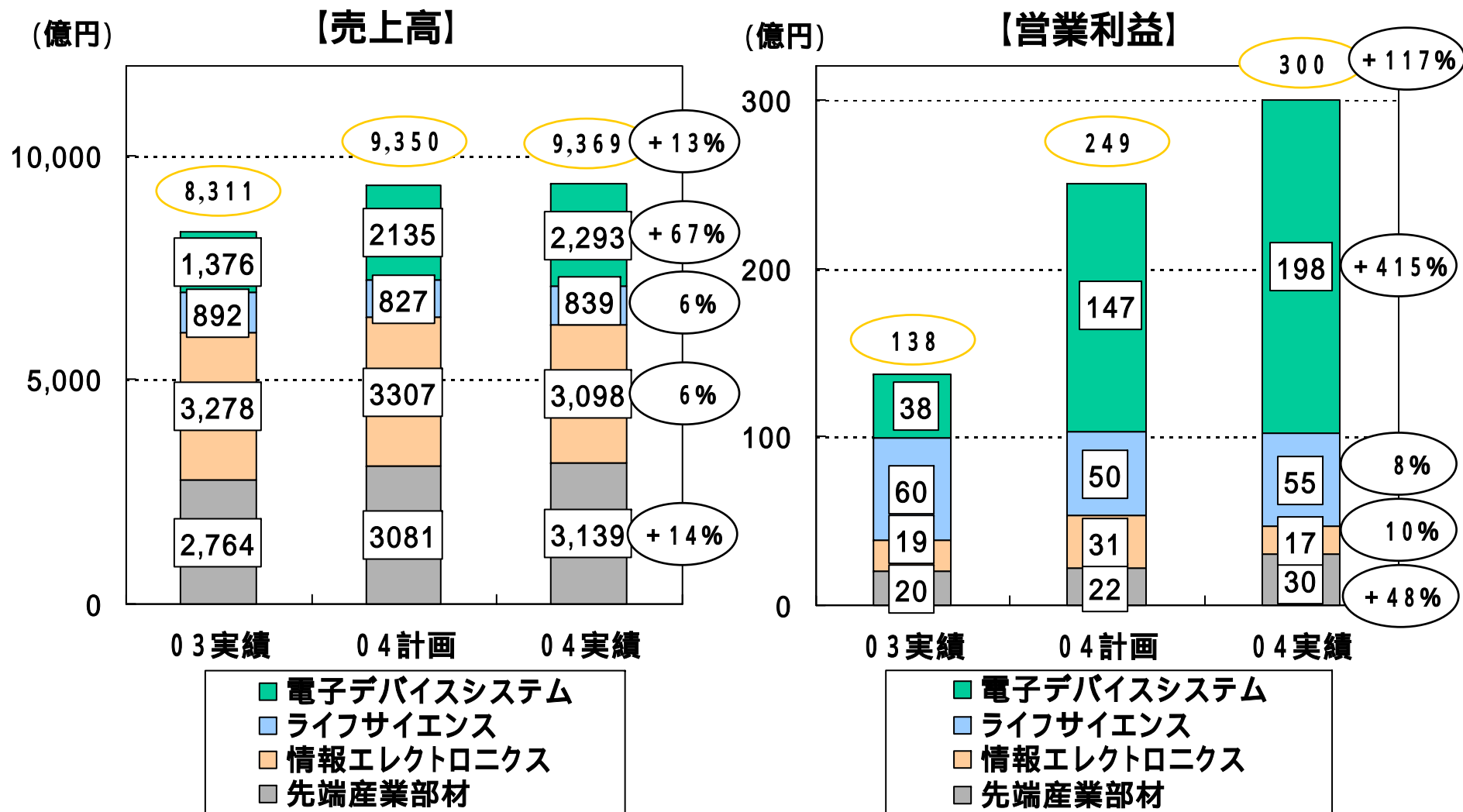
自社製品の好調により大幅増益を達成



(注) \* 04計画は、2004年10月の中間決算発表時の見通しです。  
 \* 04予想は、2005年1月の第3四半期決算発表時の見通しです。  
 \* %は前年同期比増減率を表しています。

# セグメント別営業概況

## 電子デバイスシステム、先端産業部材の業績が大幅に伸長

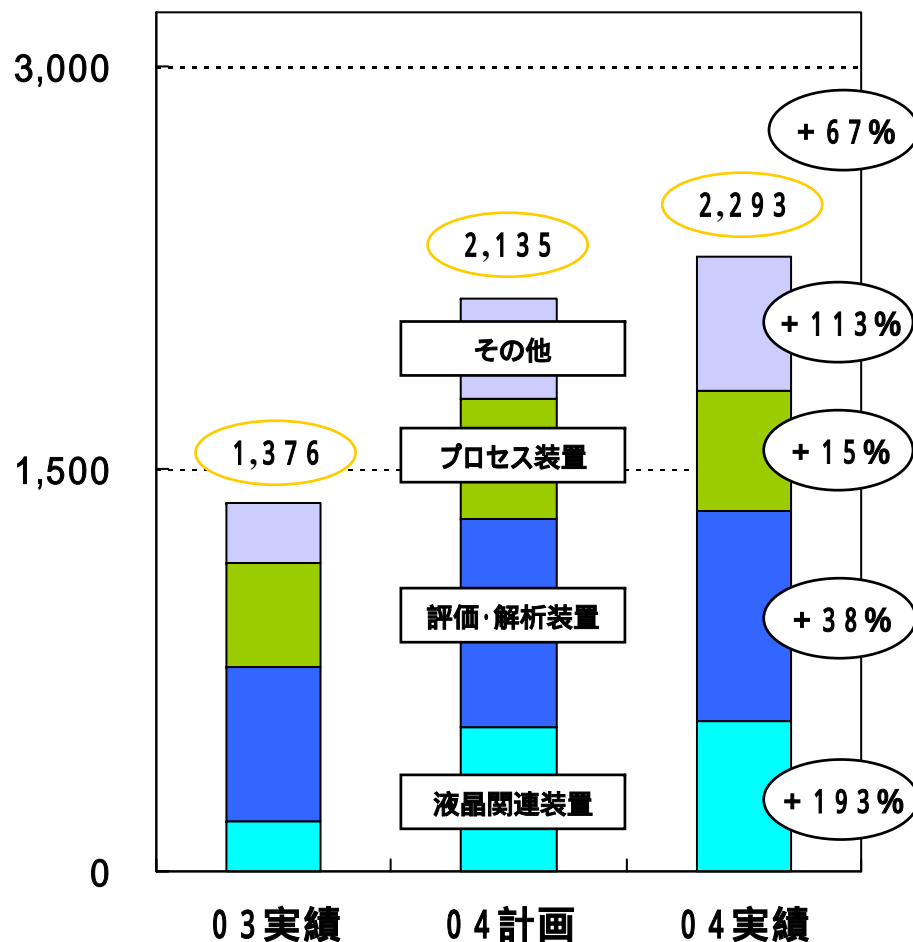


(注) \* 04計画は、2004年10月の中間決算発表時の見通しです。 \* %は前年同期比増減率を表しています。

## セグメント別主要製品群の動向(電子デバイスシステム)

半導体製造装置、液晶関連装置ともに大幅に増加

売上高(億円)



【2003年度比】 917億円増加

<プロセス装置>

- ・国内、北米向けエッチング装置が増加
- ・ASML社スキャナーで、新規顧客を獲得

<評価・解析装置>

- ・主力の測長SEMが増加(特にアジア地域)

<液晶関連装置>

- ・韓国・台湾向け製品が増加

【04中間時見通し比】 158億円増加

- ・測長SEMが伸長
- ・液晶関連装置が増加

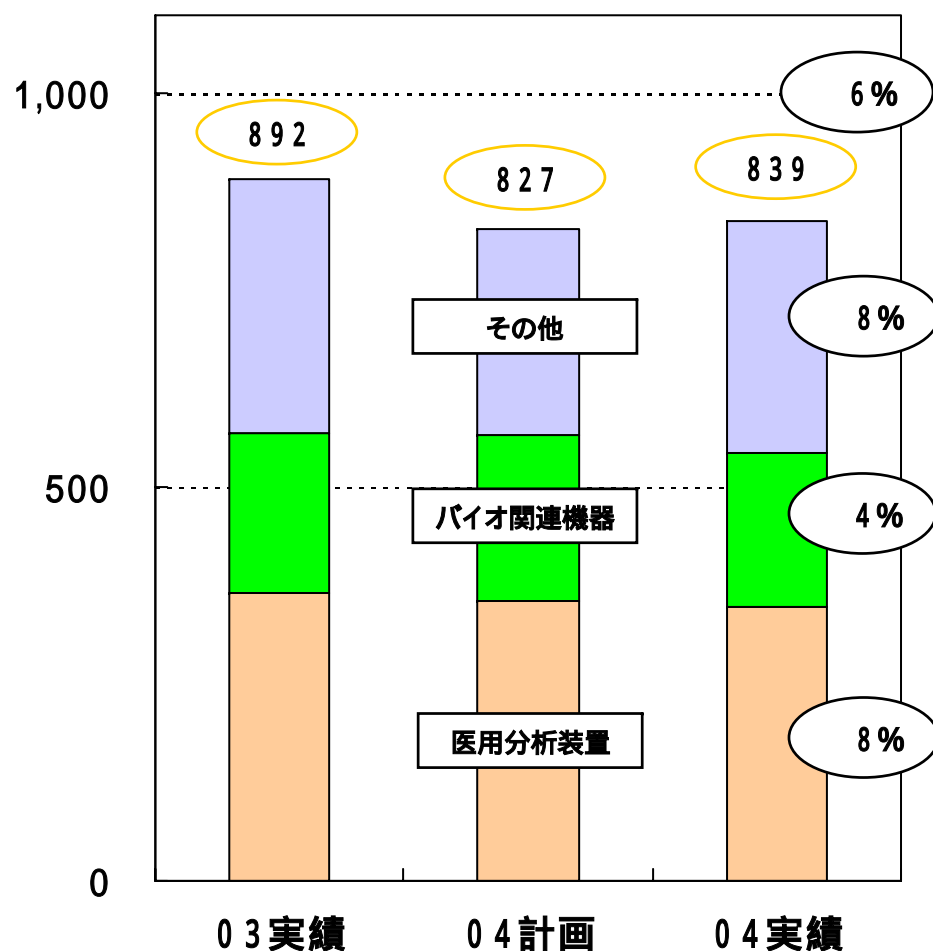
(注) \* 04計画は、2004年10月の中間決算発表時の見通しです。

\* %は前年度比増減率を表しています。

## セグメント別主要製品群の動向(ライフサイエンス)

バイオ関連機器、医用分析装置とも伸び悩み、減収に

売上高(億円)



【2003年度比】 53億円減少

< バイオ関連機器 >

- ・ 分析装置は、需要の調整局面で微減
- ・ DNAシーケンサは、需要一巡により減少

< 医用分析装置 >

- ・ 装置の低価格化や医療費抑制で苦戦

【04中間時見通し比】 12億円増加

- ・ その他分析装置が微増

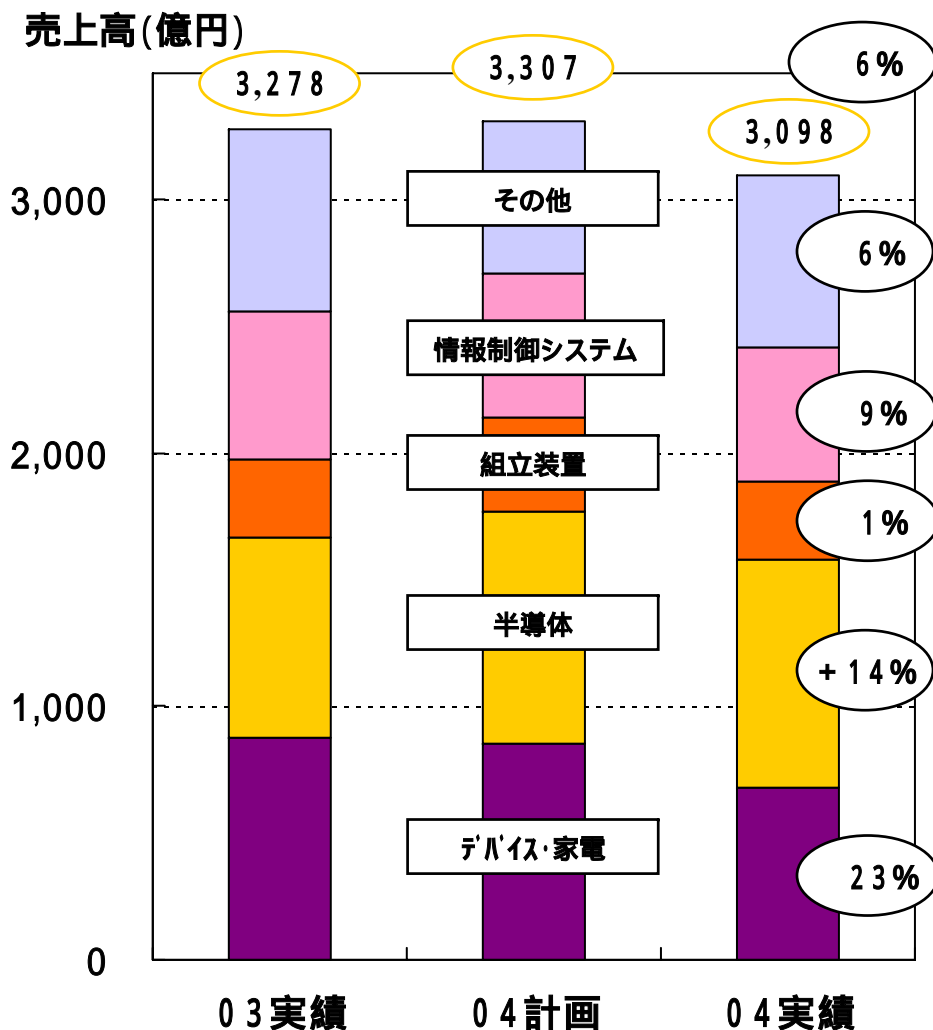
(注) \* 04計画は、2004年10月の中間決算発表時の見通しです。

\* %は前年度比増減率を表しています。



## セグメント別主要製品群の動向(情報エレクトロニクス)

### チップマウンタ、メディアデバイス・情報家電等の低調により減収に



(注) \* 04計画は、2004年10月の中間決算発表時の見通しです。

\* %は前年度比増減率を表しています。

【2003年度比】 180億円減少

#### <組立装置>

- ・有機EL製造装置、チップマウンタ伸び悩み

#### <半導体>

- ・携帯電話用半導体が増加

#### <メディアデバイス・情報家電>

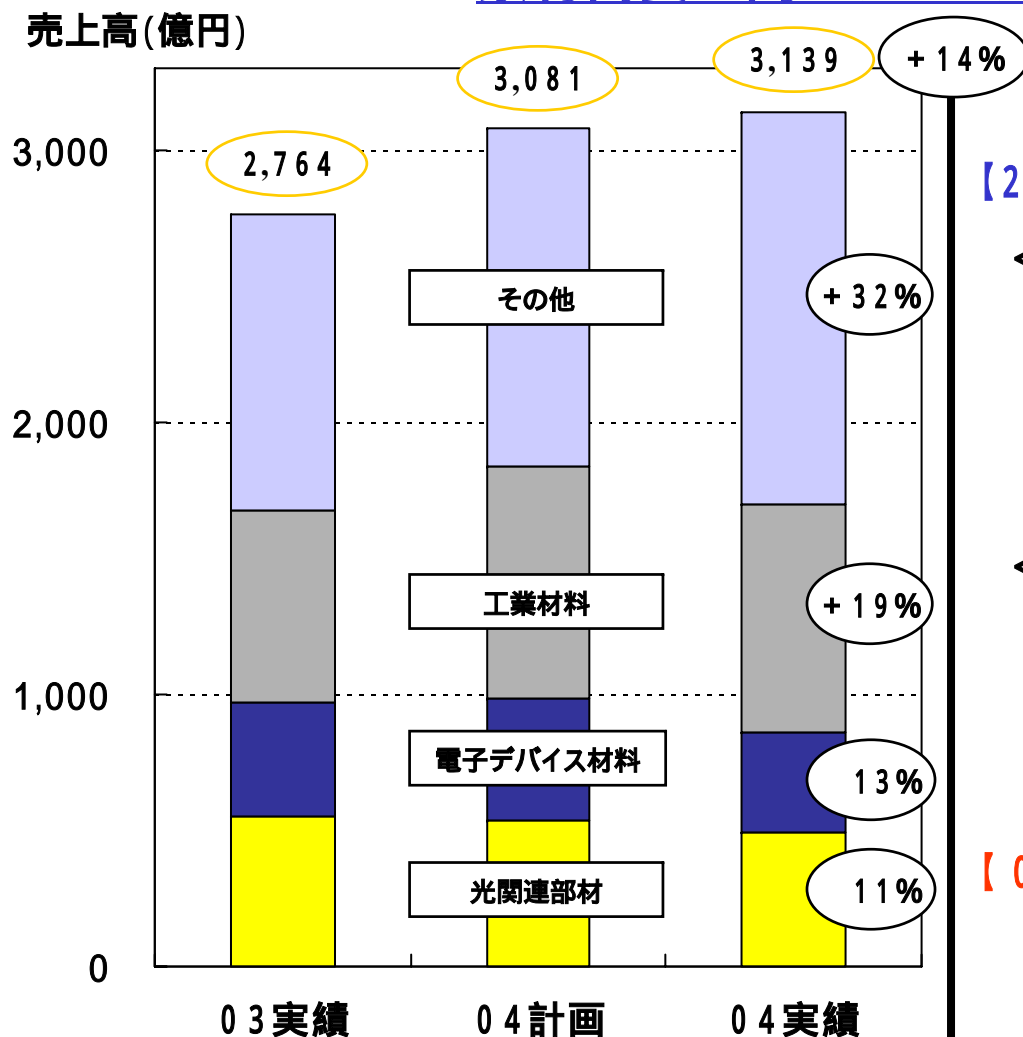
- ・アジア向け光ピックアップが大幅減少
- ・北米向け情報家電製品が大幅に減少

【04中間時見通し比】 209億円減少

- ・チップマウンタが後半に伸び悩み
- ・TFTなどメディアデバイスが大幅に減少

## セグメント別主要製品群の動向(先端産業部材)

### 素材需要の高まりにより工業材料が増加



【2003年度比】 375億円増加

#### <工業材料>

- ・旺盛な素材需要の継続により増加

#### <電子デバイス材料>

- ・生産、在庫調整局面により減少

#### <光関連部材>

- ・前半は好調、後半伸び悩みにより減少
- ・DVDR用メディア部材の減少

【04中間時見通し比】 58億円増加

- ・海外調達事業の増加

(注) \* 04計画は、2004年10月の中間決算発表時の見通しです。

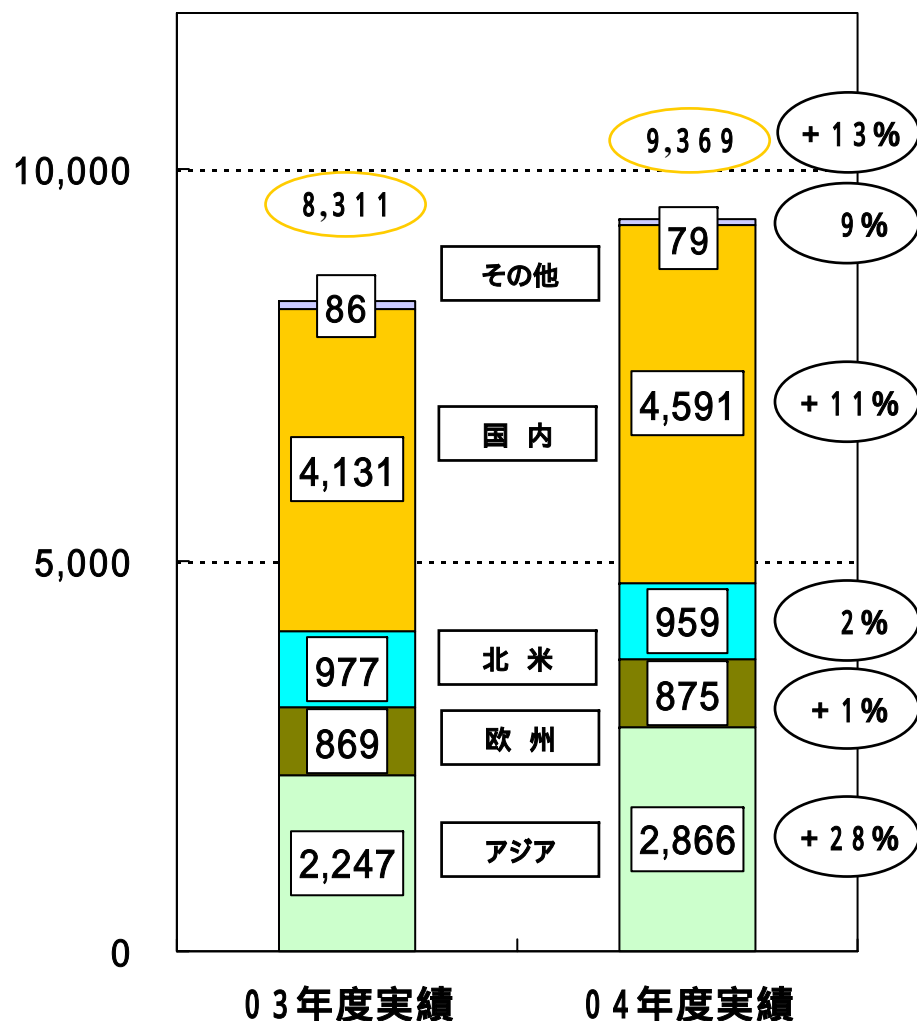
\* %は前年度比増減率を表しています。

# 仕向地別売上高

03年度 4,180億円(50.3%) 04年度 4,778億円(51.0%)

## 電子デバイスシステムのアジア向け取引が増加

(億円)



### 【国内】

- ・半導体製造装置や工業材料が増加

### 【北米】

- ・DNAシーケンサ、情報家電が減少

### 【欧州】

- ・携帯電話等が増加

### 【アジア】

- ・液晶関連装置や携帯電話用半導体が増加

(注) \* %は前年同期比増減率を表しています。

## 損益計算書

営業利益 300億円(前年比 +117%)、当期利益 150億円(+110%)

(億円)

科 目	04年度 実 績	03年度 実 績	前 年 比 増減率(%)	前 年 比 増 減 額	主 な 増 減 要 因
売 上 高	9,369	8,311	+12.7	+1,058	
売 上 原 価	8,102	7,302	+11.0	+800	
売 上 総 利 益	1,266	1,009	+25.5	+258	
販 管 費 等	966	871	+11.0	+96	(DECO)統合による経費増加 99億円
営 業 利 益	300	138	+117.4	+162	
営 業 外 収 益	26	18	+43.2	+8	
営 業 外 費 用	67	19	+247.4	+48	雑損失(棚卸資産評価損 43億円)
経 常 利 益	259	137	+89.2	+122	
特 別 損 益	14	0	-	14	代行返上益 40億円、減損損失 57億円
税 前 純 利 益	244	137	+78.7	+108	
法 人 税 等	94	65	+44.7	+29	
当 期 純 利 益	150	72	+109.5	+78	

## 貸借対照表

自己資本 1,734億円、前年度比 129億円増加(自己資本比率 40%) (億円)

資 産	05 / 3	04 / 3	増 減 要 因	負債・資本	05 / 3	04 / 3	増 減 要 因
<b>流動資産</b>	<b>3,386</b>	<b>3,582</b>	<b>196</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,257</b>	<b>2,625</b>	<b>369</b>
現金預金	461	417	Gr会社 242	買掛金等	1,648	1,883	短期借入 171
売掛金等	2,130	2,346		借入金等	99	270	
有価証券	2	41		未払費用	264	250	
棚卸資産	569	559		その他	246	222	
繰延税金	179	141		<b>固定負債</b>	<b>296</b>	<b>362</b>	<b>66</b>
前渡金	18	18		退職給付	282	327	代行返上 40
その他	66	86		その他	14	35	長期借入 20
貸倒引当	38	26		<b>負債合計</b>	<b>2,552</b>	<b>2,988</b>	<b>435</b>
<b>固定資産</b>	<b>939</b>	<b>1,046</b>	<b>107</b>	<b>少数株主持分</b>	<b>38</b>	<b>36</b>	<b>+2</b>
有形固定	566	620	減損 54	資本金	79	79	
無形固定	96	114		剰余金等	1,626	1,502	
投資他	277	312		その他	29	24	
				<b>資本合計</b>	<b>1,734</b>	<b>1,605</b>	<b>+129</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>4,325</b>	<b>4,629</b>	<b>304</b>	<b>負債・資本 合 計</b>	<b>4,325</b>	<b>4,629</b>	<b>304</b>

# キャッシュ・フロー計算書

## 借入金の圧縮

科 目	2004年度	主なキャッシュ・フローの増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	+ 260億円	税引前利益 244億円、減価償却費 89億円、 減損損失 57億円、退職給付引当金 45億円、 法人税等 89億円
投資活動による キャッシュ・フロー	6億円	運用債券の償還 40億円 投資有価証券の売却 6億円 有形・無形固定資産の取得 58億円
財務活動による キャッシュ・フロー	216億円	短期及び長期借入金の返済 191億円 配当金の支払 24億円
現金等の増減	<u>+ 43億円</u>	現金及び現金同等物に係る換算差額 5億円
現金等の期末残高	<u>490億円</u>	

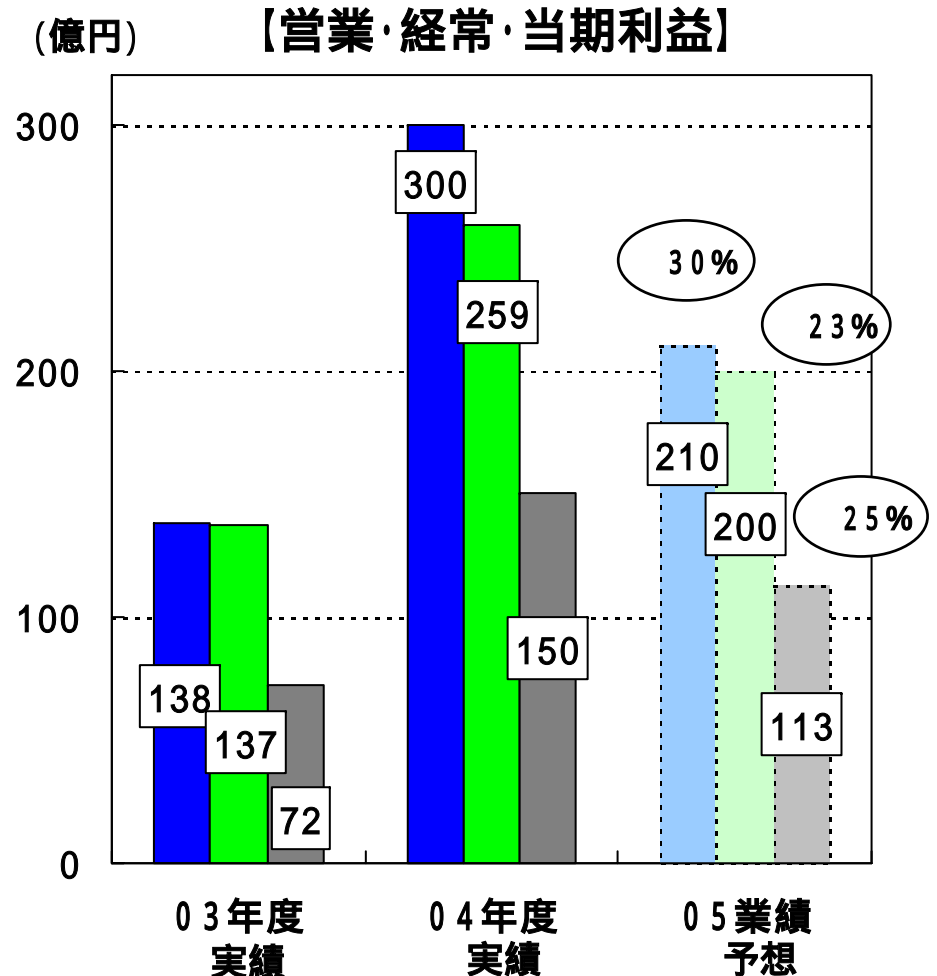
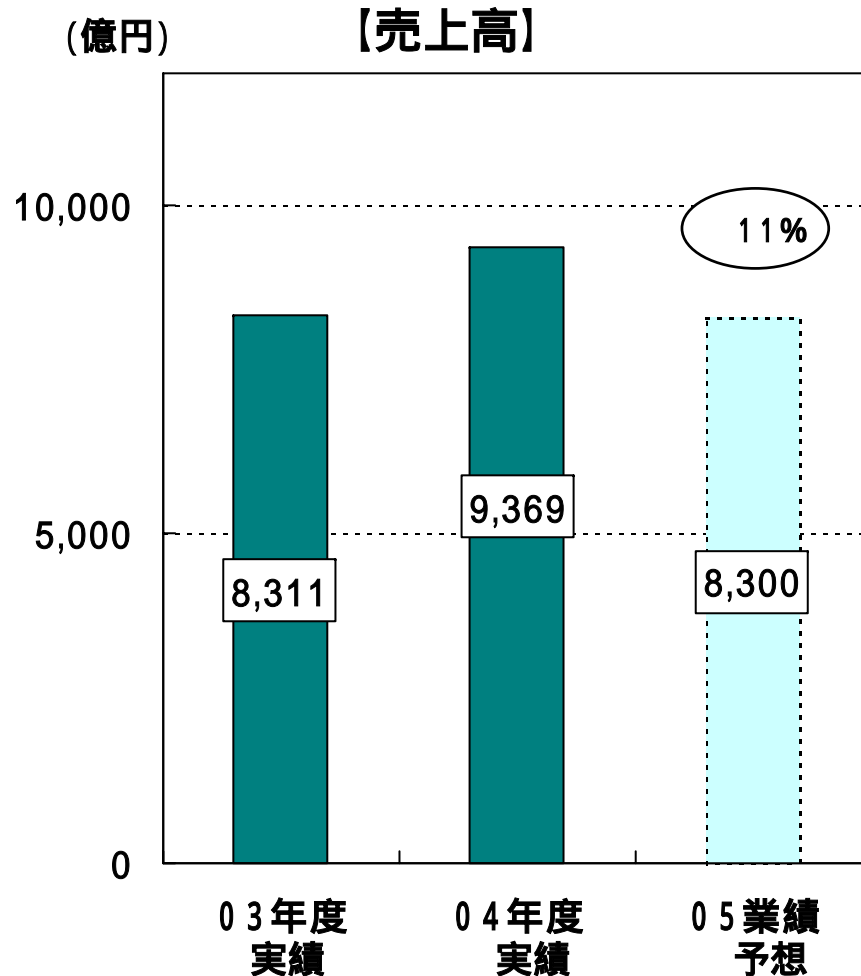
# . 2006年3月期 業績予想

---

執行役社長 林 將章

## 2006年3月期業績予想

市況調整局面が継続するものの、影響を最小限に留める



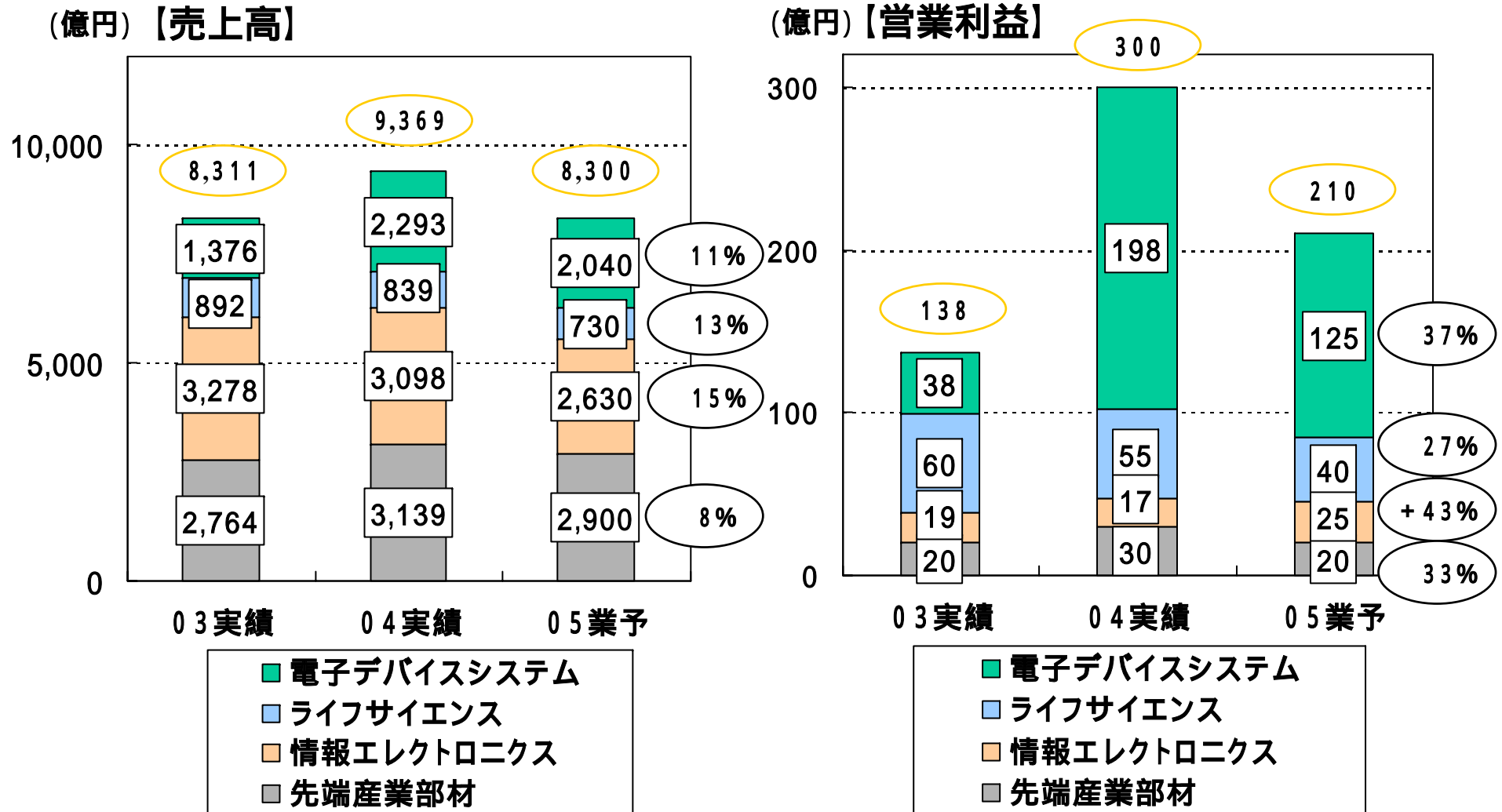
(注) \* %は前年度比増減率を表しています。

■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 当期利益



# セグメント別業績予想

## 電子デバイスシステムの減収により収益も減少



(注) \* %は前年度比増減率を表しています。

## 経営環境の見方

### －2005年は市況の調整局面－

半導体等の電子部品は、2004年度後半から  
の市況低迷が少なくとも05年度前半まで継続  
半導体・液晶製造装置市場のDipが継続し、  
市況回復は2006年度以降  
原材料の高騰と最終製品の価格下落により、  
収益性は厳しい

## 事業戦略(基本方針)

- 市場の伸びを上回る高成長企業に向けて -

### 自社製品部門の高収益化

- ・ コア事業への集中による収益性の確保
- ・ 新製品の投入によるシェアの向上

### 商事部門のビジネスモデル転換

- ・ 「付加価値提供型事業」への転換促進

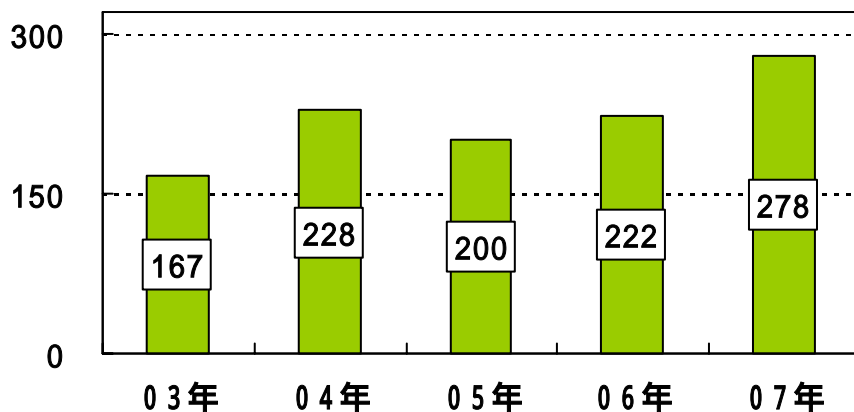
### 経営改革

- ・ 開発力及び営業力の強化
- ・ グループ会社の再編による効率経営

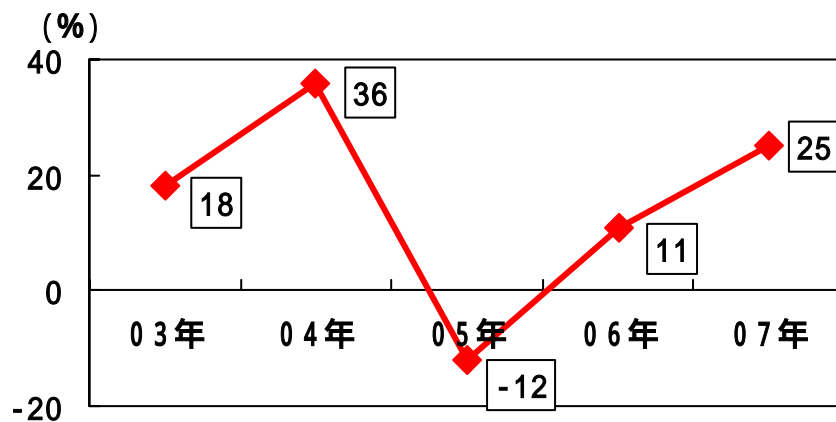
## 事業戦略(電子デバイスシステム市場)

半導体製造装置市場は12%下落、液晶関連装置市場は28%下落

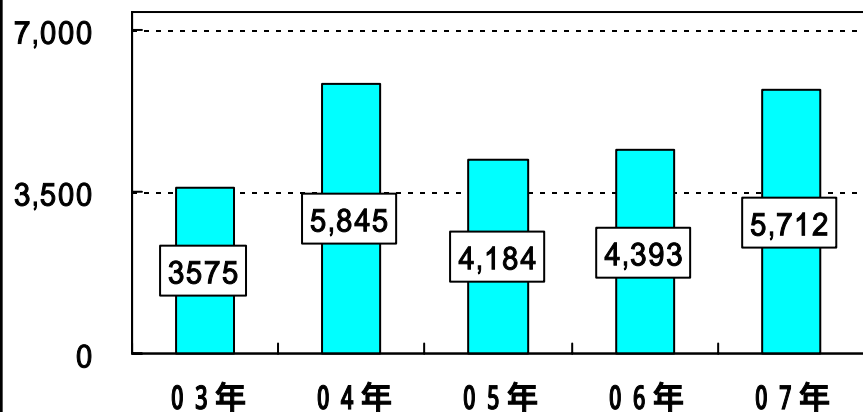
【半導体製造装置市場(前工程)】 (W / W)  
(億US\$) (売上ベース)



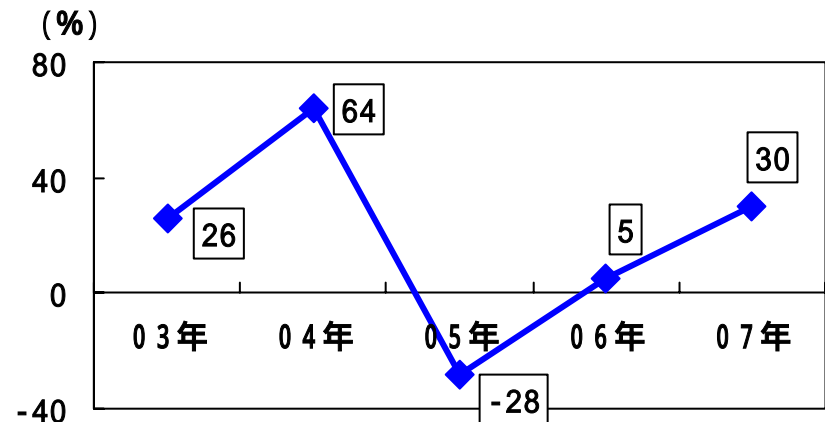
【半導体製造装置市場(前工程、前年比伸び率)】



【液晶関連装置市場】 (W / W)  
(億円) (売上ベース)



【液晶関連装置市場(前年比伸び率)】



## 事業戦略(半導体製造装置)

### 新製品の投入によりシェア拡大を図る

#### 【エッチング装置】

##### 新製品の投入

- ・ 絶縁膜機(高均一性)
- ・ ゲート機(低汚染、低温電極)
- ・ メタル機(低異物、高均一性)

#### 【測長SEM】

##### 高スループット新製品の投入

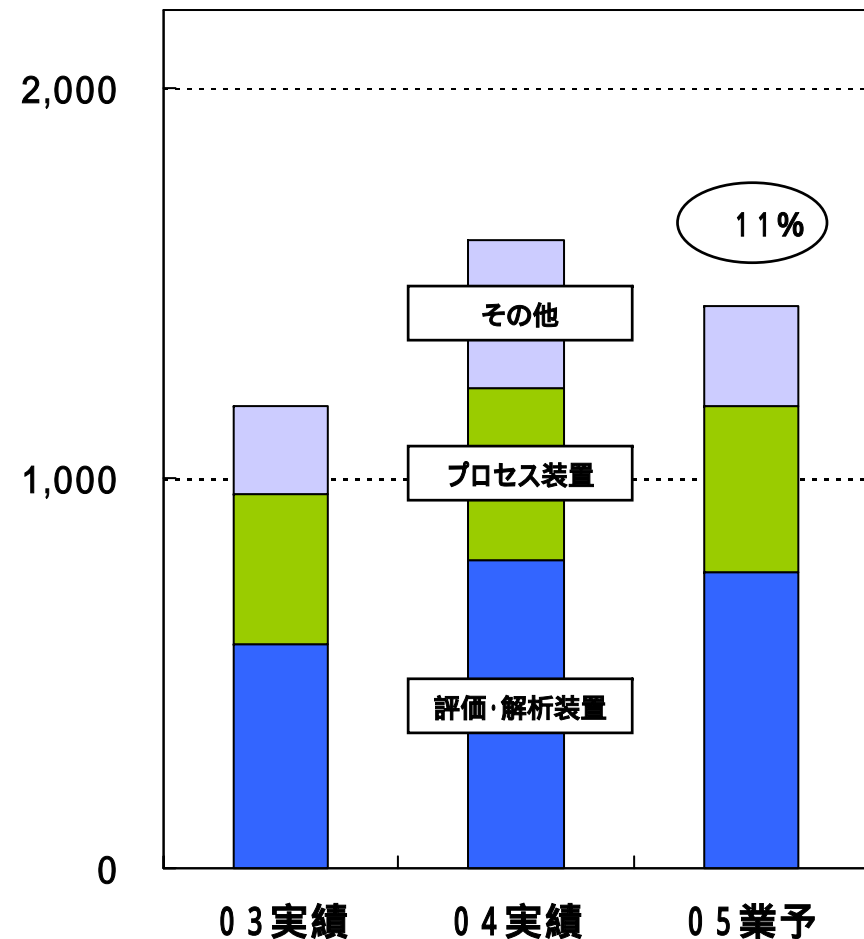
#### 【外観検査装置】

##### 32nm対応高性能機の開発

#### 【解析装置】

##### ナノ・プローバでの市場創造

#### 【半導体製造装置売上高】



## 事業戦略(液晶関連装置)

装置別の戦略強化により市況水準以上を維持

### 【ウェット装置】

第8世代対応装置の早期開発

### 【露光装置】

ブラックマトリクス対応装置の投入

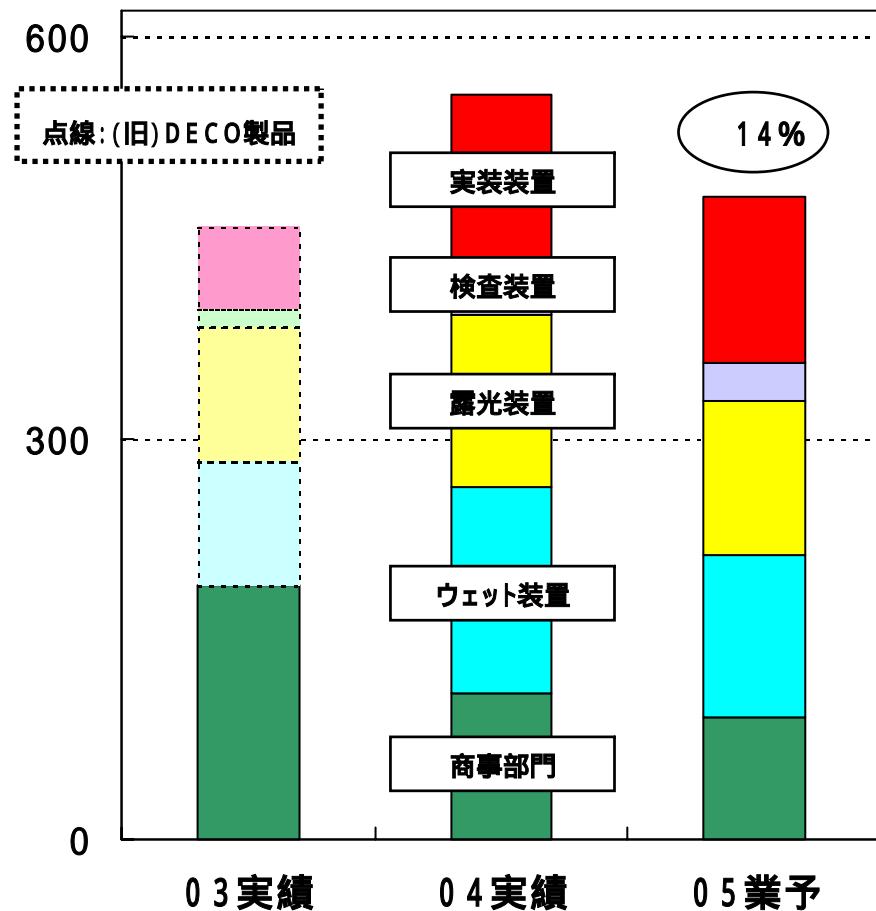
### 【実装装置】

- ・新方式の実装装置の投入
- ・中国市場への展開

### 【検査装置】

フォトスペーサー検査装置の拡販

(億円) 【液晶関連装置売上高】



## 事業戦略(ライフサイエンス市場)

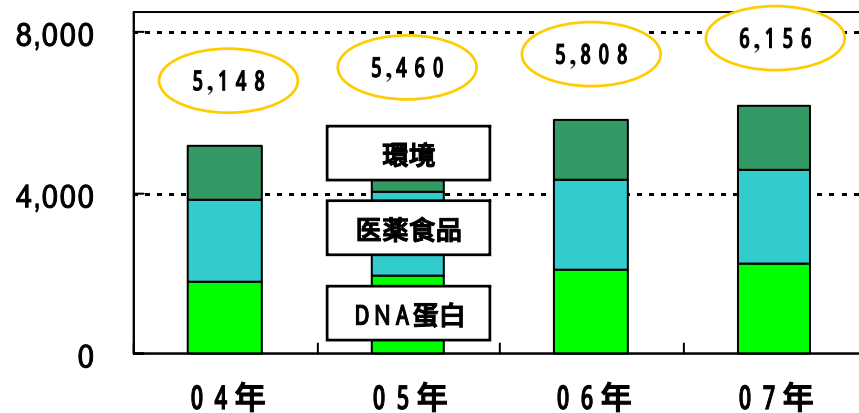
バイオ・医用ともに市場は緩やかな伸び

【バイオ関連市場】

(億円)

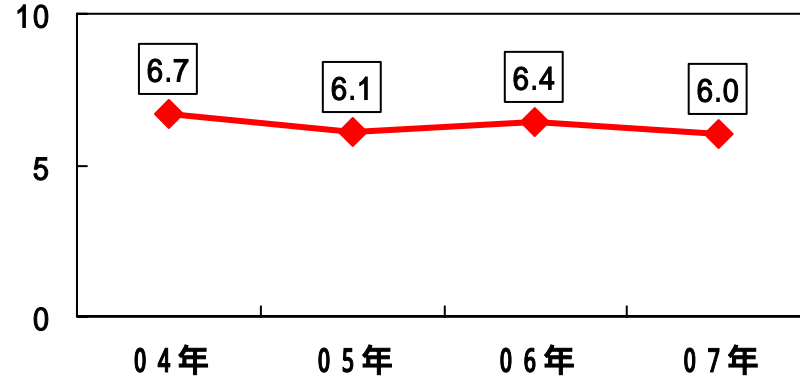
(W / W)

(売上ベース)



【バイオ関連市場(前年比伸び率)】

(%)

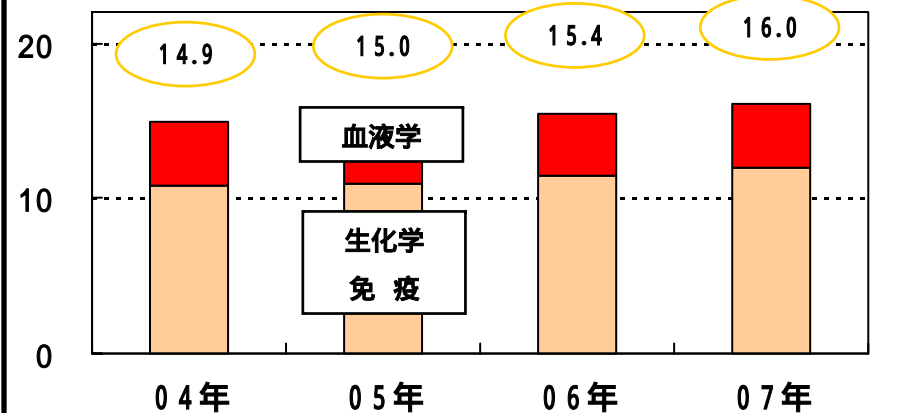


【医用関連市場】

(千億円)

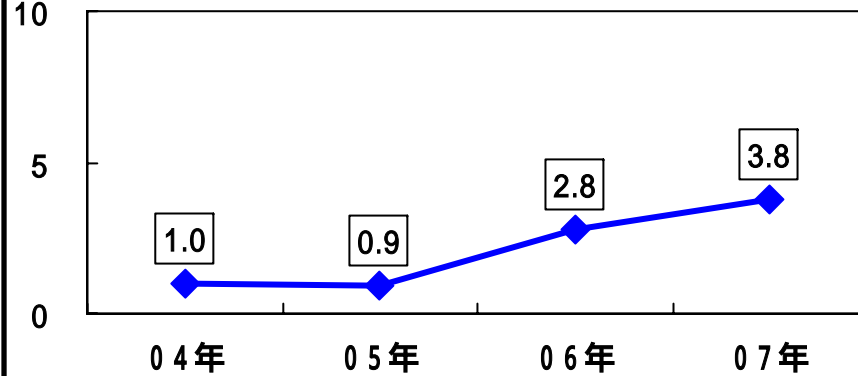
(W / W)

(売上ベース)



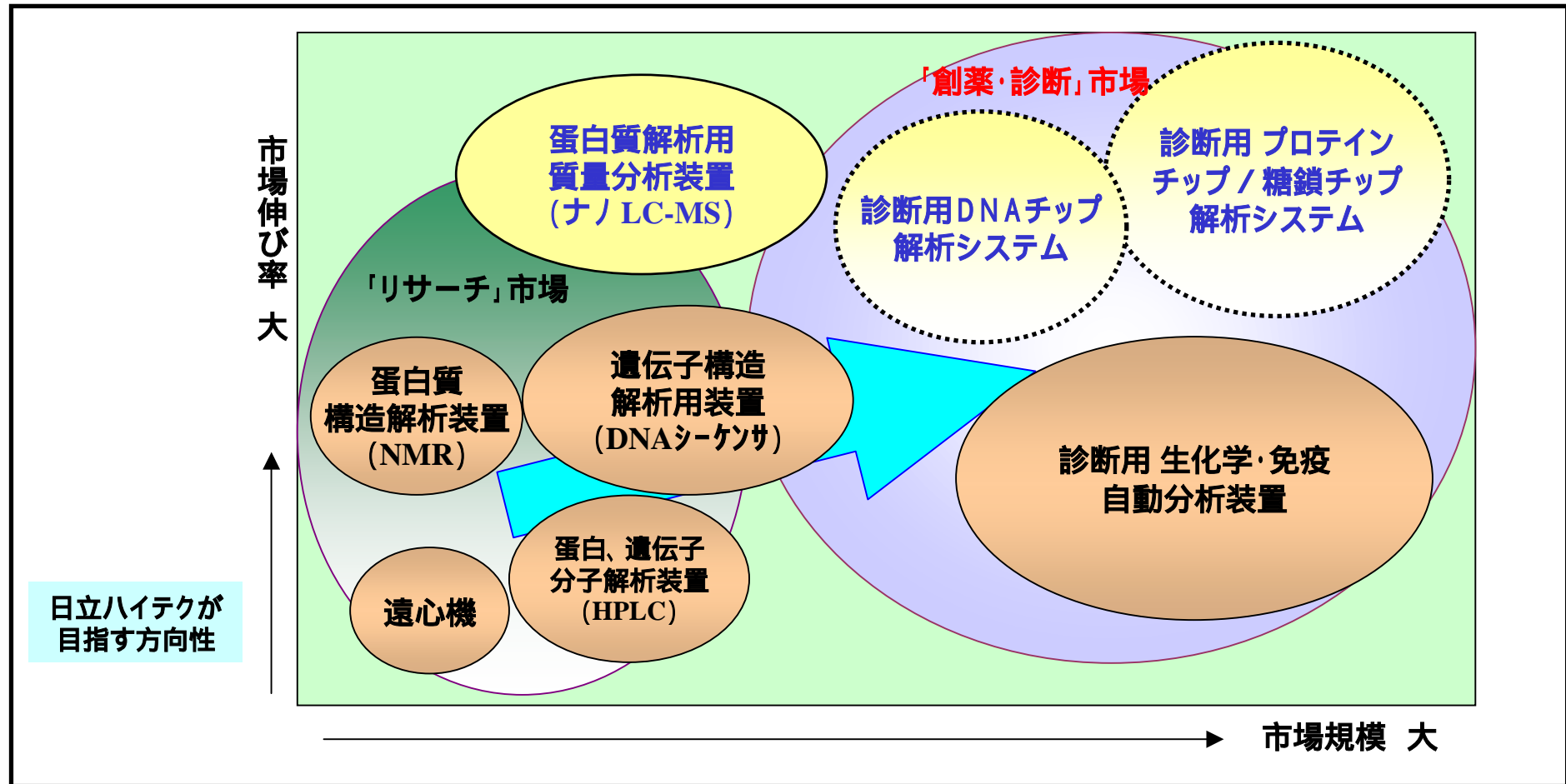
【医用関連市場(前年比伸び率)】

(%)



## 事業戦略(ライフサイエンス)

### 蛋白質解析、試薬等成長新分野への積極的参入





## 事業戦略(ライフサイエンス)

市場の成熟化に伴い既存事業は低迷、成長新分野に活路を求める

### < バイオ関連機器 >

#### 【汎用分析機器】

液体クロマトグラフ事業の拡大

#### 【蛋白質解析装置】

高感度・高精度な新型LC - MSの販売

### < 医用関連製品 >

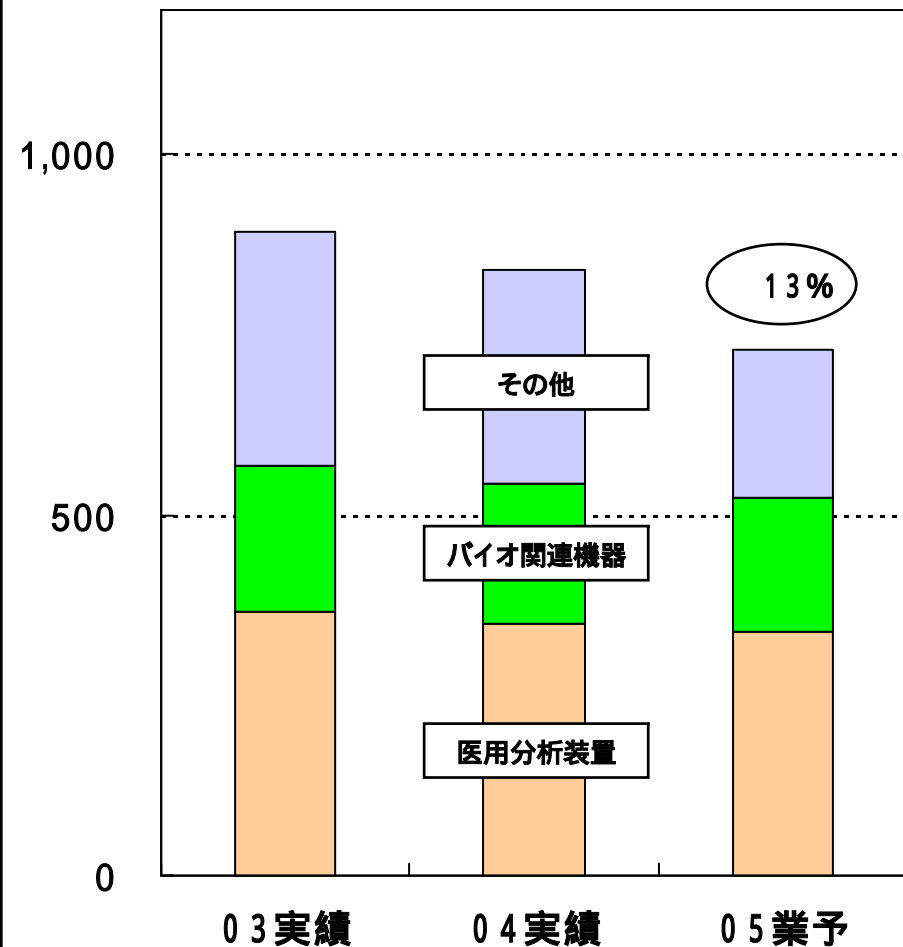
#### 【医用分析装置】

新製品と試薬一体型ビジネスの推進

#### 【心臓磁気計測システム】

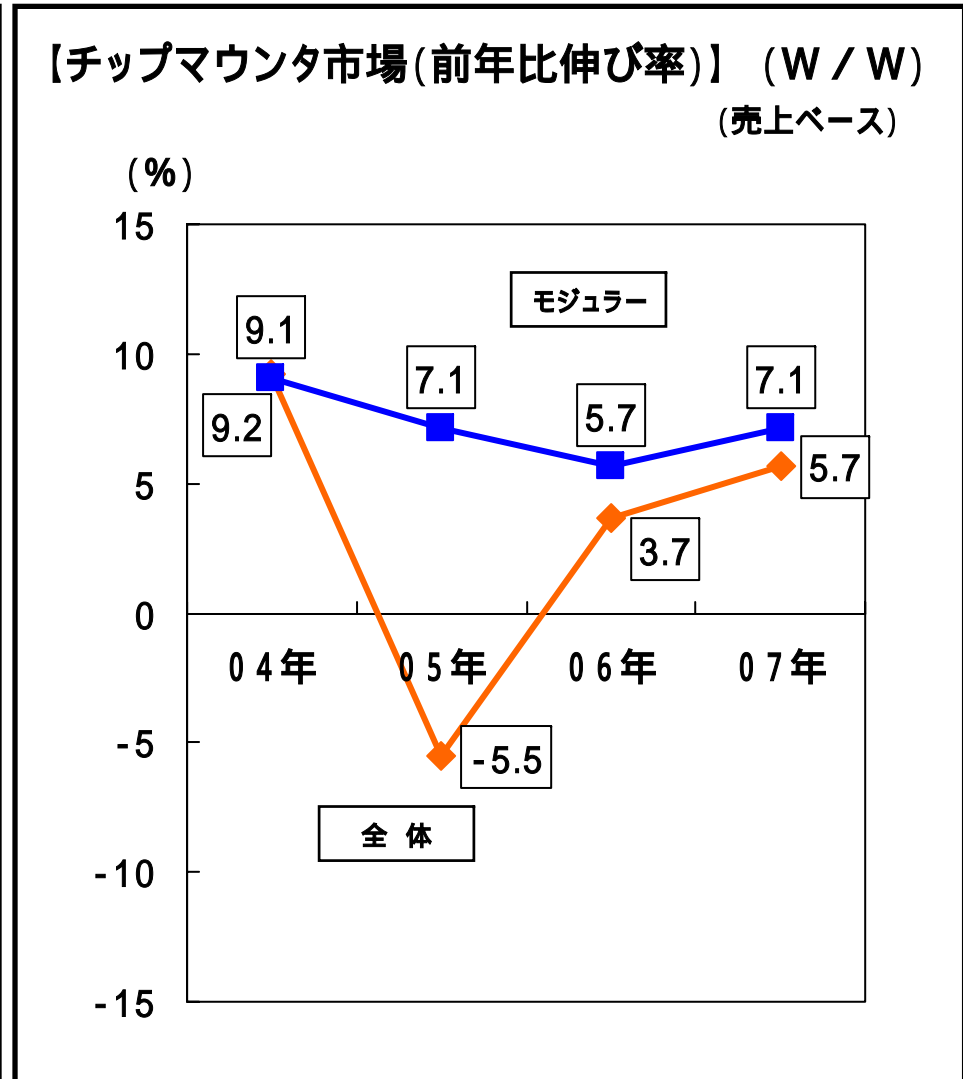
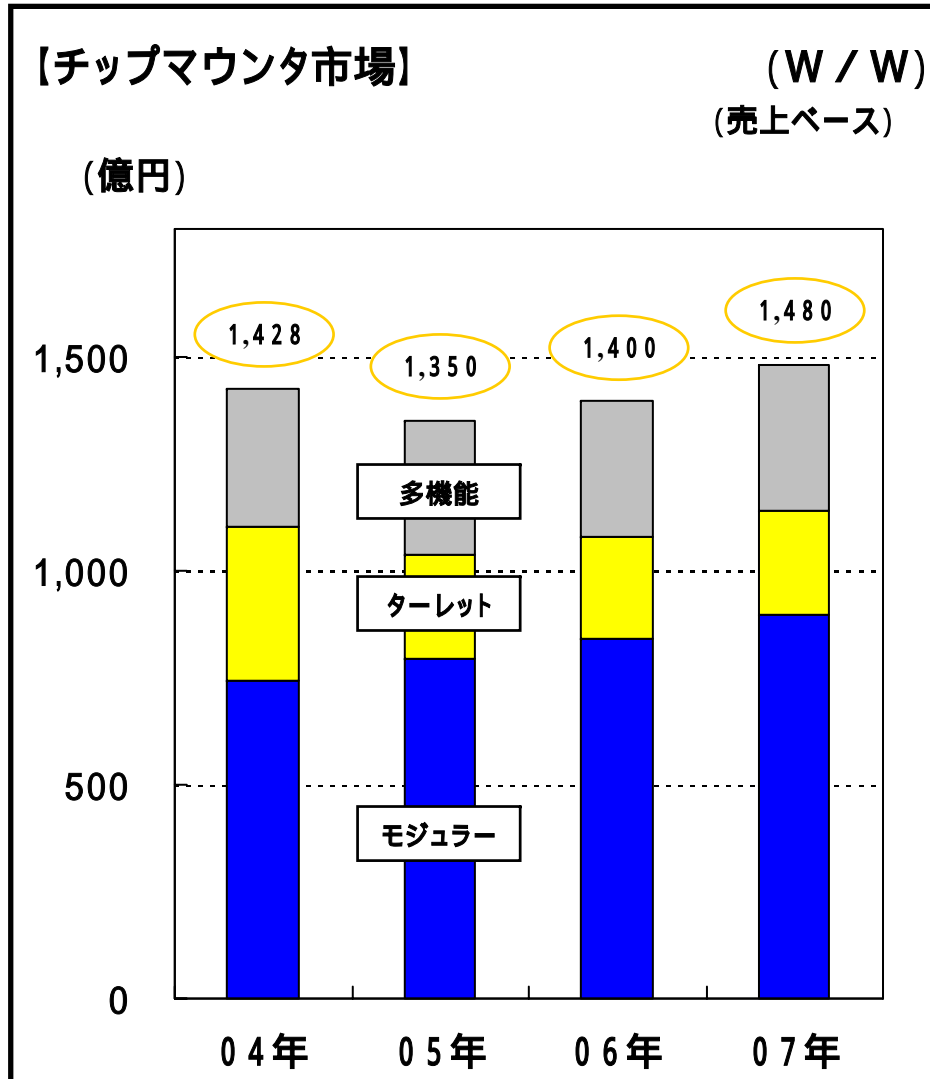
国内市場の立上げと海外市場への展開

(億円) 【ライフサイエンス売上高】



## 事業戦略(チップマウンタ市場)

2005年度は調整局面、06～07年度回復の見込み



## 事業戦略(チップマウンタ)

### モジュラーとターレットの2強体制による競争力強化でシェア向上

#### 【モジュラー機】

高性能機の投入によるシェアの奪取

#### 【ターレット機】

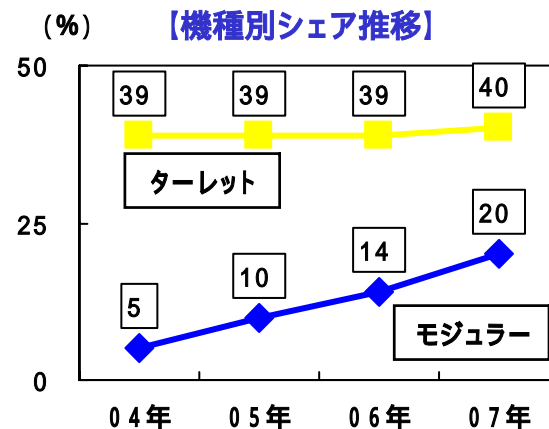
最高速機でのトップシェアの維持

#### 【重点分野】

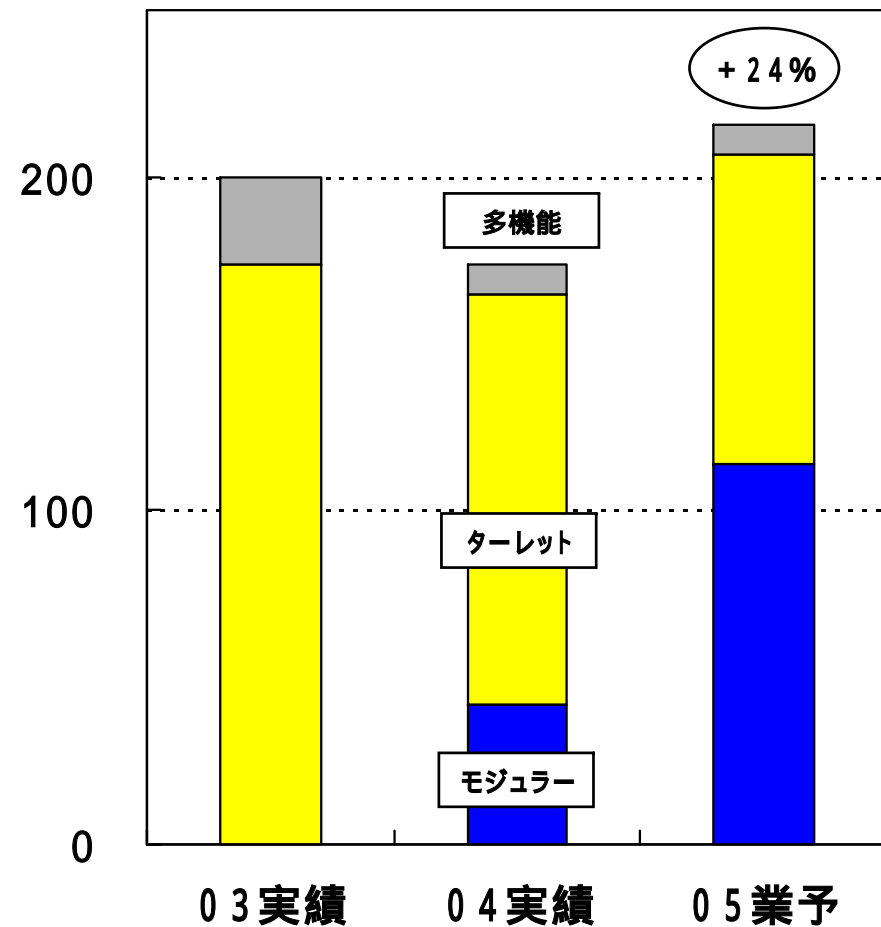
情報通信、デジタルAV、カーエレクトロニクス

#### 【重点市場】

中国



#### (億円) 【チップマウンタ売上高】

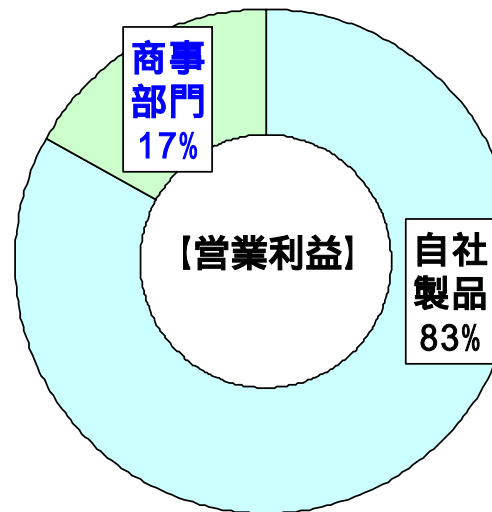
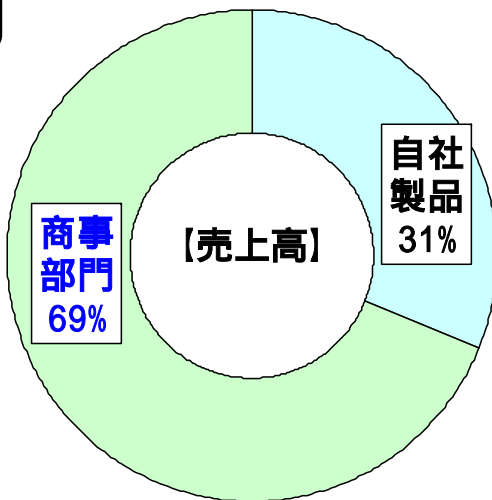


## 事業戦略(商事部門)

### 「付加価値提供型事業」へのビジネスモデル転換による収益性の向上

#### 構成比率

<2005年度>



#### 課題と戦略

##### <課題>

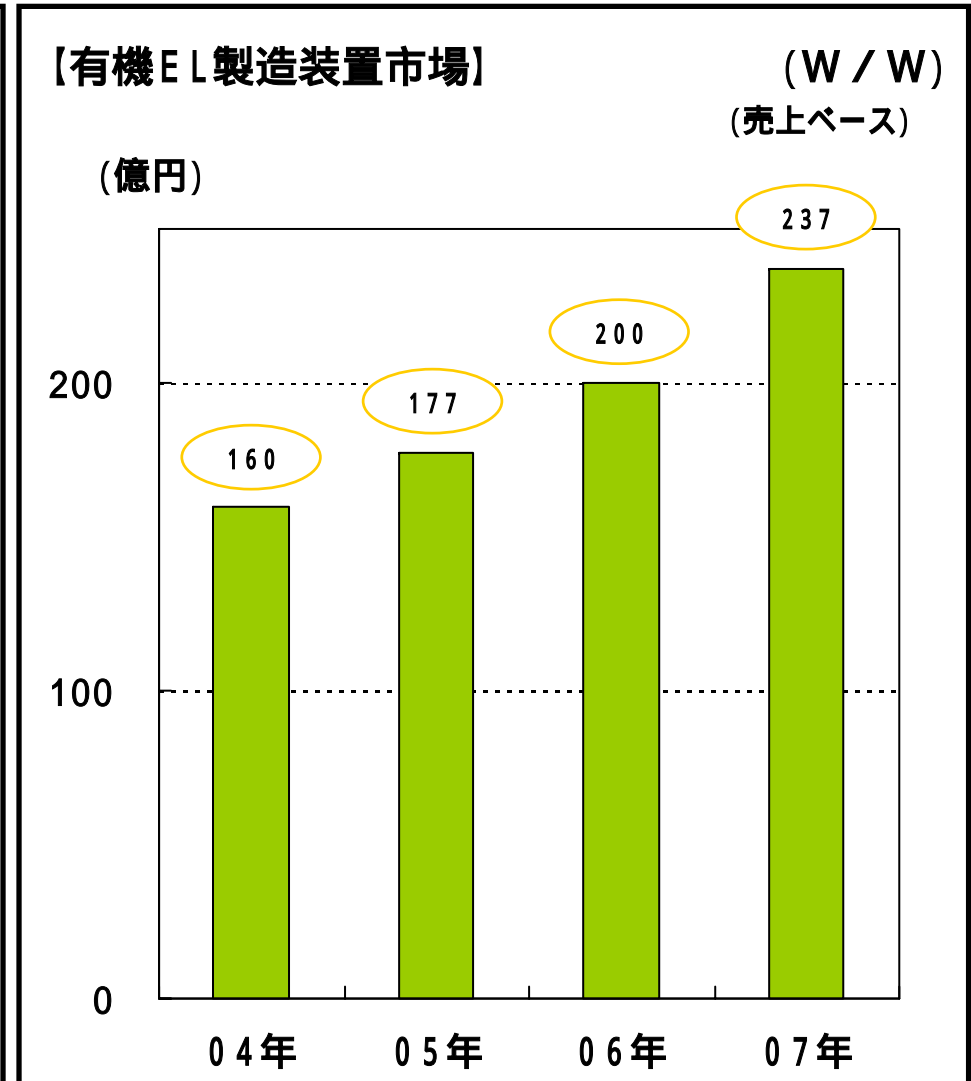
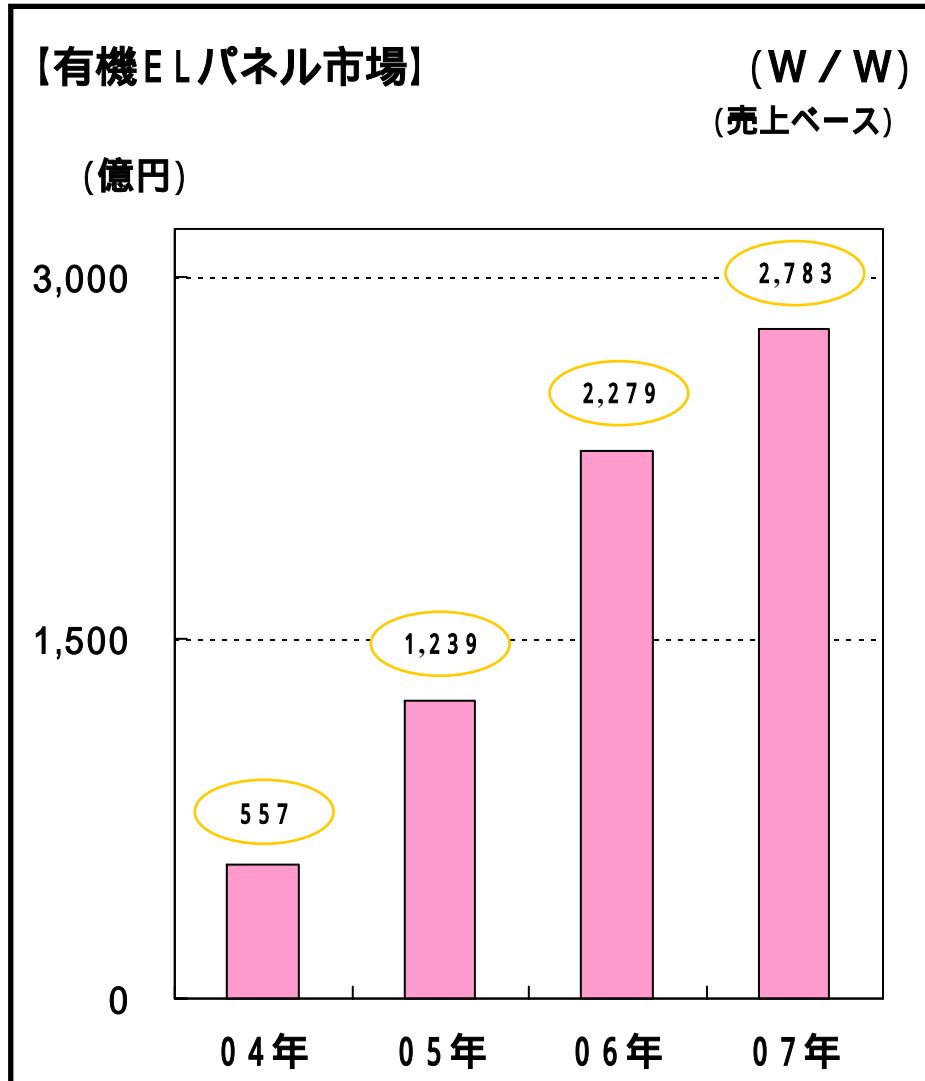
商権確保と収益性の向上  
仲介型業務からの業務転換

##### <戦略>

ビジネスパートナー(顧客・仕入先)との  
アライアンスによる「付加価値提供型  
事業」へのシフト推進  
(出資、融資、共同開発、設備貸与、製造、  
保守サービス等)

## 事業戦略(商事部門:有機EL市場)

有機ELパネル市場の拡大に伴い、製造装置市場も拡大



## 事業戦略(商事部門:有機EL製造装置の販売)

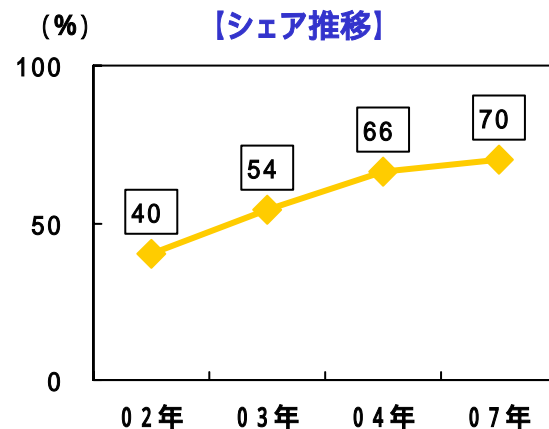
### 出資仕入先との連携強化による事業拡大

#### 大型基板用製造装置の新規投入

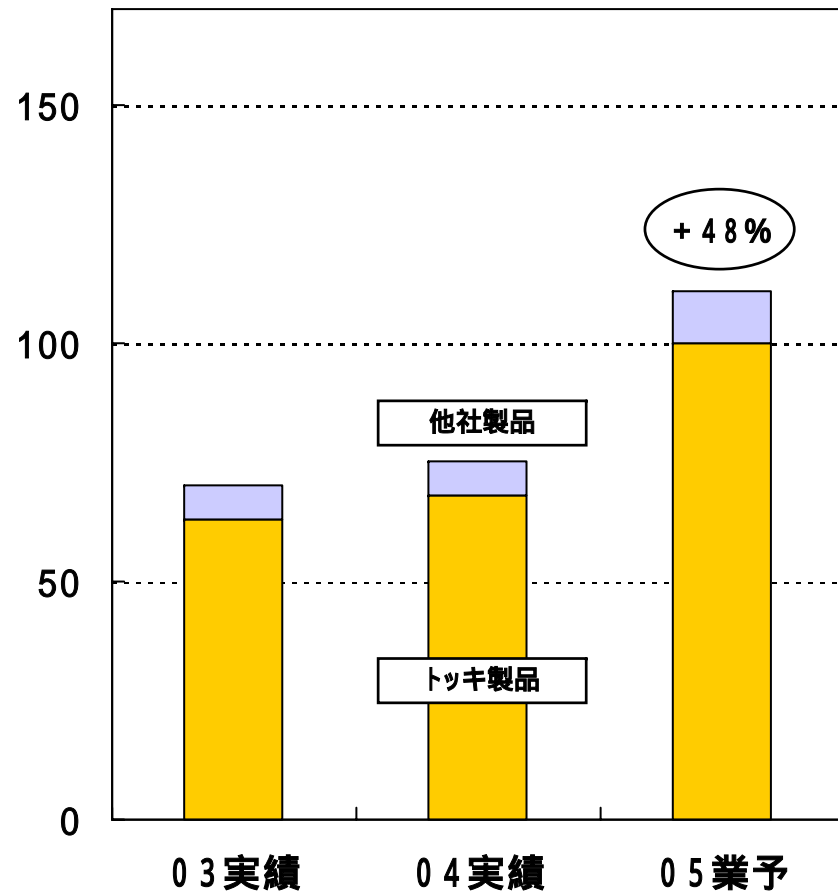
#### トッキ製装置を核としたラインアップ拡充

- ・ プラズマコーティング(住友重機械)
- ・ インクジェット装置(日立グループ)

#### トップシェアの維持



#### (億円) 【有機EL製造装置売上高】

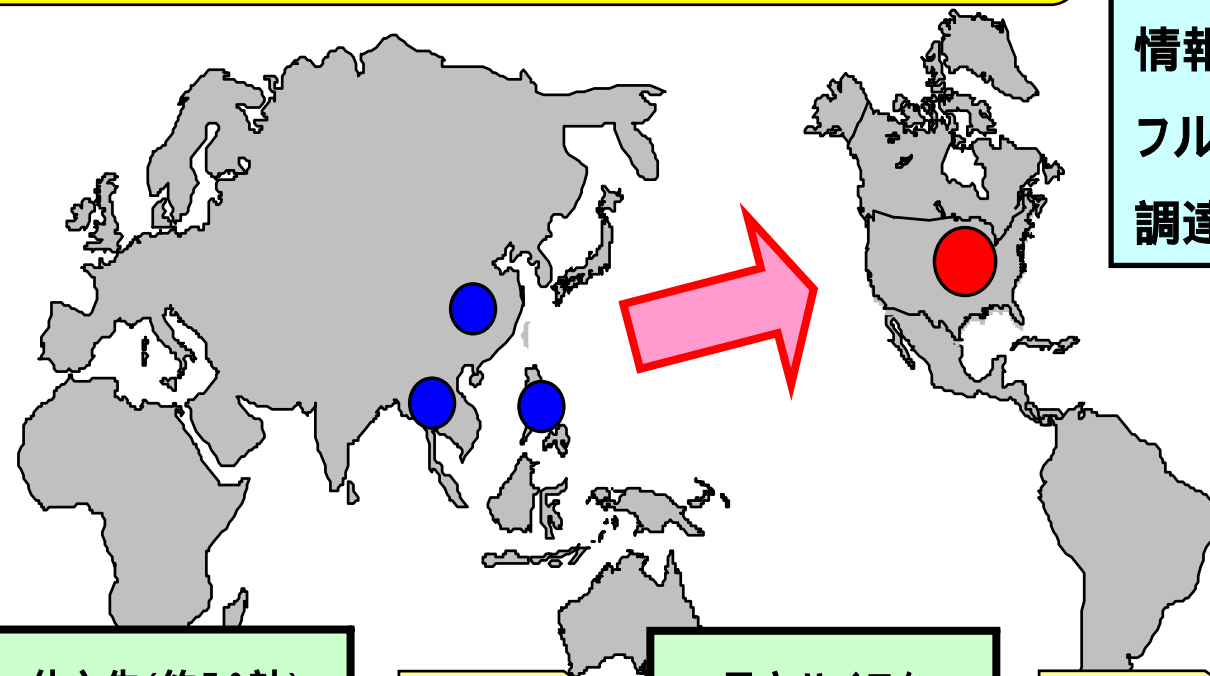


## 事業戦略(商事部門:調達ソリューション事業)

### SCM等の商社機能を付加したビジネスモデル構築

ニーズの変化 ➡ 世界最適地調達

商社機能(ロジスティクス、  
情報提供、調達、金融)を  
フル活用し、自動車部材の  
調達・集荷・JIT納入を行う



仕入先(約70社)  
(中国・タイ・日本他)

混載輸送

日立ハイテク  
W/Wネットワーク

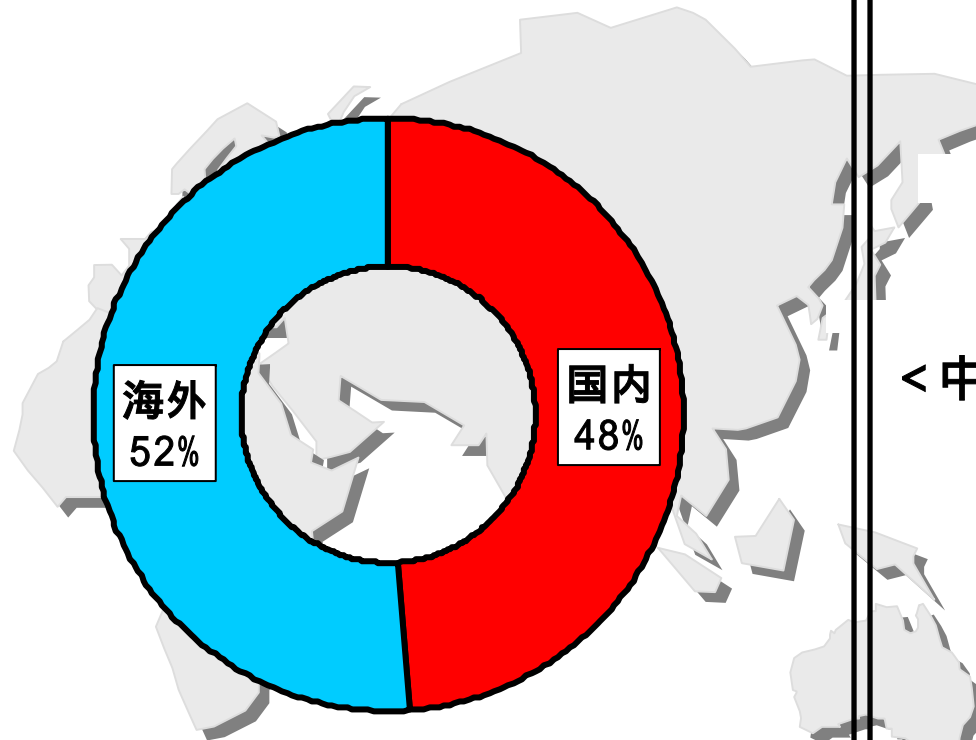
JIT納入

自動車部品メーカー  
(米国・中国・日本他)

## 事業戦略(グローバル戦略)

### 世界4極体制によるグローバル化の推進及び中国戦略の強化

【2005年度海外売上高比率】



#### <グローバル戦略>

世界4極(米・欧・亜・中)を軸とした  
グローバル化の推進

#### <中国戦略>

CEPA新会社を設立予定

- ・ 中国内流通・貿易権の取得
- ・ 販売・サービスの一体運営

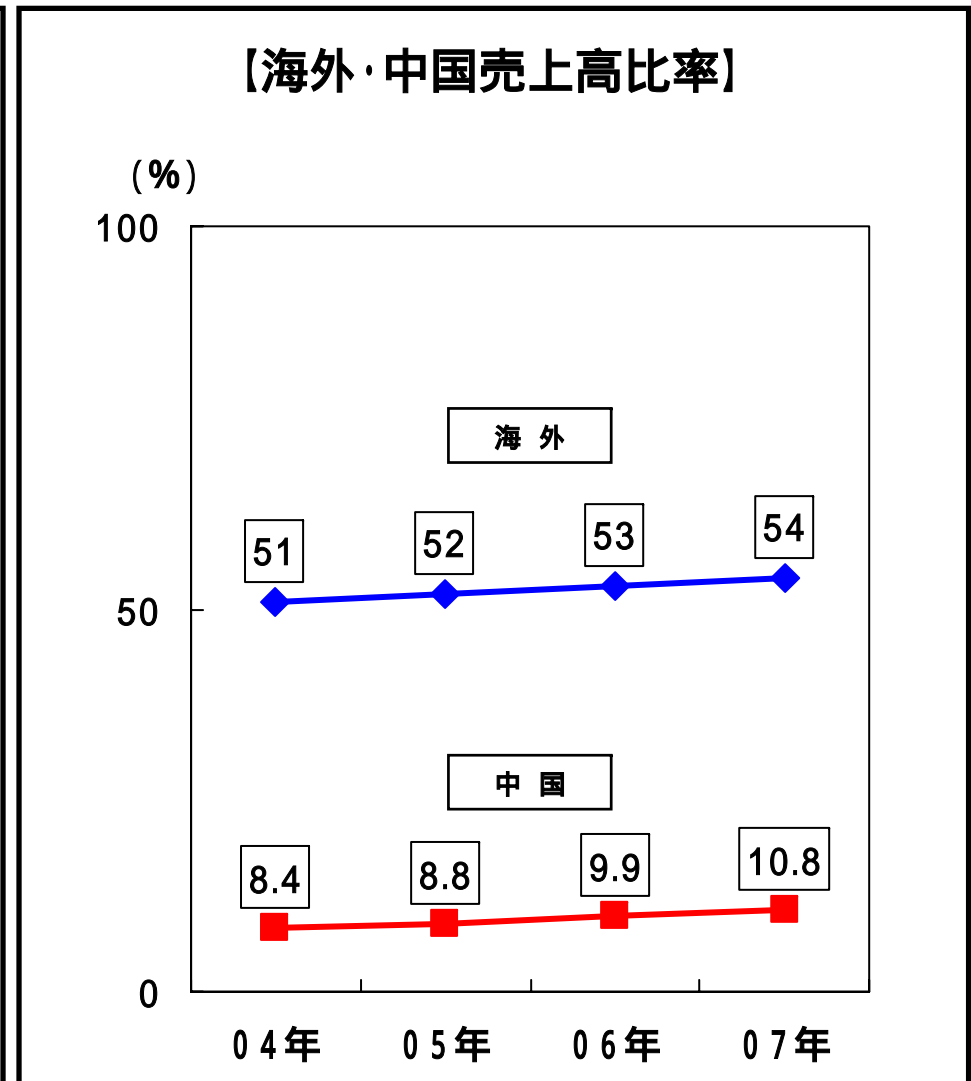
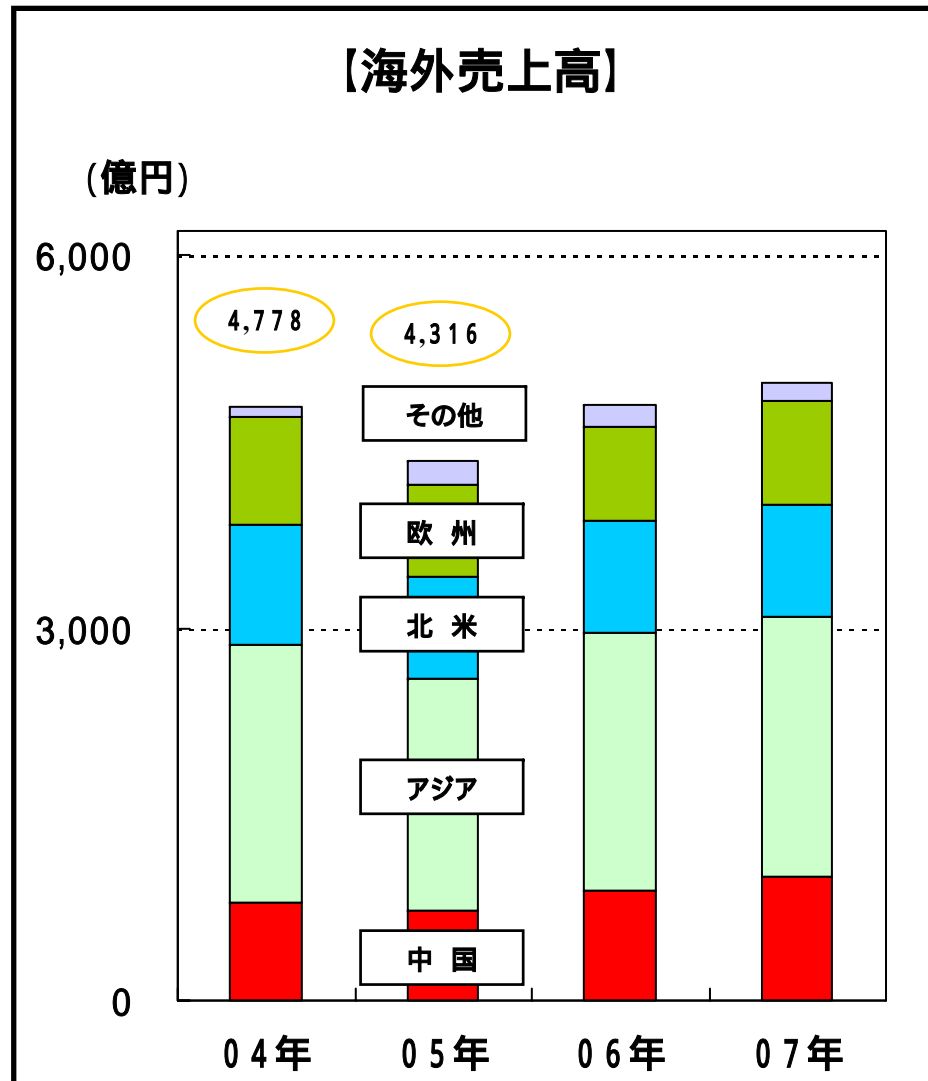
現地生産、現地調達への移行による

原価低減の推進



## 事業戦略(グローバル戦略)

中国を中心に海外売上比率を向上させる



## 経営改革

開発・営業力の強化及びグループ会社の再編により連結経営を強化

### 1. 開発力の強化

選択と集中 ➡ コア事業へのリソース投入

積極的な研究開発投資

共同研究の推進(日立の研究所、大学、その他外部機関)

ユーザーアプリケーションセンタの設立

グループ会社に分散していた開発部隊や同種事業を集約

・ 主力製品の開発 ➡ 那珂事業所に集約

・ 情報システム事業 ➡ 日立ハイテクソリューションズに集約

(旧)日立電子エンジニアリングの半導体検査装置

埼玉事業所 ➡ 那珂事業所に集約

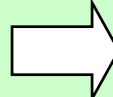
(新クリーンルーム棟建設: 05/4竣工、総費用20億円)

## 経営改革

開発・営業力の強化及びグループ会社の再編により連結経営を強化

### 2. 営業力の強化

西日本、関東支社の新設による地方営業力の強化

複数の分野に跨る事業の拡大  横串営業組織の立ち上げ

クロス デビジョン ビジネス推進本部の新設

販売グループ会社の整理・統合

- ・ 日製エレクトロニクスと日製エンジニアリングを統合 (04/4)

 日立ハイテクレーディングの設立

- ・ 日製サイエンスを日立ハイテクへ吸収統合 (05/4)

## 経営改革

開発・営業力の強化及びグループ会社の再編により連結経営を強化

### 3. マーケティング機能の強化

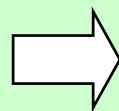
事業戦略本部の新設

### 4. 保守サービスの強化

日立計測器サービスとヒスコソリューションを統合(05/4)

### 5. 製造グループ会社の整理・統合

日立那珂インストルメンツと計測テクノロジーを統合(04/7)

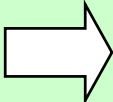


日立ハイテクマニファクチャ & サービスを設立

## 経営改革

開発・営業力の強化及びグループ会社の再編により連結経営を強化

### 6. 受託分析センタの統合

5ヶ所に分散  2ヶ所に集約

### 7. 保守サービスと営業の連携強化

海外のサービス会社と販売会社を統合(～06/3)

### 8. 総コストの削減

中国への生産展開

日立儀器(蘇州)、大連那珂儀器での生産拡大

直材購入費用、間接費の低減推進

### < 資料取り扱い上の注意 >

本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、すべて連結です。

数値情報は、億円未満を四捨五入しています。

増減率は、基本的に円単位で計算しています。

本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況、為替相場など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおきください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

以 上